

Requiem 三部作

作／井伏銀太郎

第一章「前夜」

濱田 博幸…はまだ ひろゆき (ヒロ兄)

櫻田 早雪…さくらだ さゆき (サーちゃん)

櫻田 夏美 さくらだ なつみ 早雪の姉 博幸の元婚約者で津波で行方不明

東日本大震災から7年目の春。宮城県の港町。博幸と早雪の結婚式前夜。

博幸の部屋。23時過ぎ。テーブルの上に写真立て3つと、小さなディスプレイひとつ。

写真立てにはそれぞれ夏美の父親と母親の絵、

写真立てに夏美の写真を入れている。

(博幸の携帯電話鳴る。)

博幸／ もしもし、サーちゃん……えっ？寝てないよまだ。どうしたの？

今から…今からって？もう来てる…玄関？

もー！いや牛じゃないって…もー、もー、もー……ちよつと待って

(写真立てをカゴに片付け、クロスをかけ、ドアを開ける)

博幸／ 普通さー、来る前に電話しない？

早雪／ 電話したでしょ、おぼんですって。

博幸／ (室内に戻りながら) 花嫁さんがどうしたんですか？こんな時間に。

早雪／ (博幸のあとに続いて入ってくる) 買い物ついでにね、ちよつと。

博幸／ 買い物？

早雪／ (コートを脱ぎながら) 打ち合わせの時、美容師さんに言われたんだよね。

結婚式の前夜は、化粧水のバックして、……十分睡眠取ってくださいって。

博幸／ 十分夜更かししてるし。だから式場のホテルとったんでしようが。

早雪／ だーって仮設から式場向かうのイヤでしょ。ヒロ兄も泊まればよかったのに。

博幸／ 俺は、お袋達、迎えに行かなきゃなんないの。

早雪／ そっか。(コートを椅子の背にかけながら)

化粧水のバック切れてたから、コンビニでね。(コンビニ袋見せる。座る)

博幸／ ふーん…お茶どう？

早雪／　んー眠れなくなるからなー。

博幸／　(用意しながら)こちらローズヒップにハイビスカス入り。

ビタミンCたっぷりなのハーブティーでございます。

(気取って)お嬢様、お肌にもよろしいんですよ。

(お茶を入れる)

早雪／　なーにーもーのー？(笑う)花婿さんこそ、何やってたんですか？

博幸／　まつ、色々…準備だよ。

早雪／　準備って……うっ！ヒロ兄、サプライズはやめてよね！

博幸／　サプライズ？

早雪／　ウエディングケーキの中に隠れるとか。

博幸／　ドリフターズか！

早雪／　これ以上驚くのやなんだよねー。

博幸／　そんなじゃないよ。

早雪／　いやー昨日ね、変な夢見たんだよね。

博幸／　へー。どんな？

早雪／　結婚式始まってんのに、新郎がいないんだよ。

一人でウエディングケーキをカットするとケーキの中から新郎が、

博幸／　(元気に)お待たせ？

早雪／　(笑う)そうそう！ってか夢だからなんでもありなのね！

でもね、気が付くと何故か、花嫁が二人いるの。

博幸／　二人？

早雪／　二人ともベールかぶってて、同時にベール上げるとあつちは、

博幸／　あつちは？

早雪／　私。あつちも私なの。鏡に映ったみたいに…あれ、お姉ちゃんだったのかな。

博幸／　(お茶のカップを渡して)……ドッペルゲンガーじゃない？

早雪／　えっ、やだ。

博幸／　って言うか…夢だからなんでもありなんだろう。

早雪／　(紅い色のお茶見て)わー綺麗…(飲んで)わーすっぱ。(すっぱい顔)

博幸／　(自分も飲んで)山形のおじさんたちは？

早雪／　もう寝てる。夕方ね、ホテルで食事会した。

博幸／　へえ。

早雪／　すんこい楽しみにしてるよ、おじさんたち子どもいないからさ。

博幸／　良かったな。

早雪／　うん。その時、おじさんね…

「早雪…夏美の…お姉ちゃんの婚約者と結婚するからって

色々言う人もいるかもしれないけど何も気にしなくていいからなつて。
俺達は応援するからなつて。…きつと…夏美も祝ってくれるから」つて。
……祝ってくれるかな？

博幸／ ……祝ってくれるよ。

早雪／ ねえ、ヒロ兄…………お姉ちゃん、帰ってきたらどうする？

博幸／ 何言つて(んだよ)

早雪／ (かぶせて) 真剣な顔…………。(笑う)

博幸／ サーちゃん…………不安なのか？

早雪／ (あっけらかんと) 全然。ごめんね。

博幸／ もう…帰つてこないよ…………。(小さく) 帰つてこない。

(二人お茶を飲む)

早雪／ ねえヒロ兄。

博幸／ ん？

早雪／ このままサーちゃん・ヒロ兄でいいのかな。仮にも夫婦になるんでしょ。

博幸／ 仮にじゃないだろ、明日…………本当の夫婦になるんだから。

早雪／ だよね…………やっぱりさ、あなたとか呼ばなきゃならんのかね。

博幸／ えええええ？？？

早雪／ ねえ、あなた、あなた、あなたつてばー。

博幸／ うわ…………やめてくれ…………。まあ、明日考えっぺし。

早雪／ なんだっちゃん。 (飲み干して) ごちそうさま。

(間)

早雪／ じゃあ帰るわ(立つ)。

博幸／ おう。

早雪／ (敬礼っぽいポーズで) 明日は、ワン・プリーズ！

博幸／ は？

早雪／ ひとつよろしく。

博幸／ おっさんか！送ってくよ。

早雪／ ありがとう。(コートを取ろうとする)

博幸／ あのさ…………あの…………

早雪／ ん？

(間)

早雪／ あっ…やっぱサプライズでしょ、ケーキに入るの？

博幸／ そんな訳ないだろ、追加してもらったんだよ料理。

早雪／ へ…………出席者増えたの？

博幸／ まあ。

早雪／ 何人？

博幸／ ……4人分……かな。

早雪／ へー……ヒロ兄の友達？

博幸／ (無言で写真が入った籠を出して、中から夏美の写真を取り出す)

早雪／ お姉ちゃん？……えっ？

博幸／ みんなにも、祝ってもらおうって思ってたさ。

(写真立てに入った父と母の似顔絵を渡す)

早雪／ ……それで追加したんだ？

博幸／ まあ……陰膳みたいなもんだけど。…ちゃんと席も用意してやろうと思って。

早雪／ (写真立ての絵を見て) これ………お父さん？

博幸／ こっちがお母さん。

早雪／ ヒロ兄書いたの？ (笑いながら) 似てるねお父さん。

博幸／ あまりにも印象的だし、家族会議で初めて会ったとき。

早雪／ 額の真ん中のホクロでしょ？ちっちゃい頃のあだ名がね

「大仏」「仏像」あと「昌夫」。

博幸／ 「昌夫」？

早雪／ (千昌夫の「北国の春」の出だしを歌う)

博幸／ 千昌夫か！

(二人笑う。写真を見ながら)

博幸／ でもこのホクロでお父さんって分かったんだからな。

早雪／ そっか……一緒に見つかったのがお母さんでね。

博幸／ なんで一緒に見つかなかったのかな、夏美は。

早雪／ 絶対、一緒だったと思うよ。あの日は家族会議の予定だったから。

博幸／ だよな………どこに行っちゃったんだろな。ひとりだけ。

(二人ここまで立ったままである。早雪また座って)

早雪／ ……沖繩。

博幸／ 沖繩？

早雪／ うん。

博幸／ なんで？

早雪／ 震災から一年位たって、こっちの船が沖繩で見つかったって話あったでしょ。

博幸／ あったな。

早雪／ だからね………お姉ちゃんもあっちの方に流されたんだって思ってたの。

博幸／ 沖繩か………だったら………あつたかくていいかもな。

(博幸も座って) 夏美寒がりだったからな。

早雪／ あんなに遠くまで流されたんなら、どんなに探しても見つからないはずだもん。

博幸／ ……………そうだな。

早雪／ それにね、沖繩にはね、ニライカナイがあるから。

博幸／ ニラレバ炒め？

早雪／ ニラしか合つとらん！！

博幸／ (笑いながら) いやいや知ってるよ。沖繩の天国だよな。

早雪／ うん。沖繩のはるか東にある天国ニライカナイ。

そこは、生きていてはたどりつけない場所。

博幸／ 生きていてはたどりつけない場所か…………

早雪／ お姉ちゃんはね、ずーっと流されてニライカナイにいるんだよ。

そこでは亡くなった人が守護霊になって家族の幸せを祈ってるんだって

だからお姉ちゃんも見守ってくれてるって、そう信じてるんだ。

博幸／ 一人で踊ってたりしてな。

早雪／ ダンス？

博幸／ うん。

早雪／ 一人じゃ踊れないよ。

博幸／ ……………だよな。

(間)

早雪／ ごめんね。

博幸／ なにが？

早雪／ 足がすくんじやってさ。遺体安置所の入り口で。どうしても入れなくて。

ヒロ兄が見つけてくれてさ。お父さんとお母さん。

本当は私が見つけてやらなくちゃいけないかったのにな。

たった一人残った家族なのにな。

博幸／ 一人じゃないよ、俺だって家族だと思ってるし、明日は

本当の家族になるんだから。

早雪／ ごめんね、弱わちちくて。

博幸／ 弱くなんかないよ。皆の葬式の時だってサーちゃん一回も泣かなかったでしょ。

早雪／ だって私がしっかりしなきゃ。喪主だし、それに、お姉ちゃんいつも

言ってたじゃん。「人間は、悲しいから泣くのではなく、

泣くから悲しいんだ」。ジエームズⅡランゲ説ね。」

楽しいから笑うんじゃないよ、

早雪／ 笑うと楽しくなる」

博幸／ いつも言ってたな。

早雪／ やっぱ言ってた？んねー。これ以上悲しくなりたくないからねー。

無理してでも笑わなきゃねー！

博幸／　だな。

(間)

博幸／　でもびっくりしたよ。

早雪／　なにが？

博幸／　いや家族会議ってさ。

早雪／　そーお？ウチ昔っからやってたよ、ふしぶしに。

博幸／　ふしめふしめにだろ。それじゃ関節痛いみたいだろが。

早雪／　(無視して、父の真似して) えー、これから櫻田家家族会議を始めます。

このたび濱田博幸くんと夏美が結婚することになりました。

新しい家族が増えます。みんなで祝ってください。

博幸／　よく覚えてんなー。

早雪／　だつて書記だもん。

(父の真似して) えー、まずは、博幸君、夏美・おめでとさん。

それでは初めに博幸くんからひと言ご挨拶をお願いします。

(博幸の真似して) あの、濱田博幸です。あの、夏美：さんとは、

大学のダンスサークルで知り合いました。やがて、ダンスのパートナーに

なりました。あの、これからは、人生のパートナーとして二人でがんばります

(言いながら笑っていく)

博幸／　笑うなつて！一週間考えたんだからな！

早雪／　一週間考えてあれ？ダンスのパートナーかーらーのー人生のパートナー

(笑う) ありがちー！(笑う)

博幸／　(笑いながら) うるせーよ！ダンスは俺の青春だったんだからいーんだよ！

早雪／　(笑いながら) ゴメンゴメン。はいはい青春ね。

私一回だけ応援行ったことあるよ

ダンスのコンテスト、すんごいテンポ早いでビックリした。

博幸／　俺らはラテンダンスだからな。

早雪／　ほんとに息ぴったりのパートナーだったよね……………ごめん。

博幸／　なんで謝んの？

早雪／　だつて……………なんだか……………ごめんね。

(間)

早雪／　覚えてる？

博幸／　なに？

早雪／　最後にお父さんが「博幸さんに1つだけお願いがあります」って言ったの。

博幸／　一度でいい、娘を奪っていく君を殴らせろ

早雪／　さだまさしか！「私は古い人間だから、お願いだから結婚式までは

子供を作ってくれるな」ってさ。今は子連れでバージンロード歩く人だつて珍しくないのにねー。(笑う)

(間)

早雪／ あの日には緊急招集だったよね。

博幸／ ん？

早雪／ 震災の日。家族会議。

博幸／ (博幸二杯めのお茶をいれようとする)

早雪／ 大学の授業終わってー、福島からこっち向かってー、あ、お茶もういいよ。

ちようど仙台着いたとこで地震にあつてー、こっちに着いたのは

2日後だったなー。……………ヒロ兄も参加する予定だった？

博幸／ まあ。

早雪／ そっかー。……………何の会議だったんだろね。

博幸／ ……………

(間)

早雪／ じゃあ今度こそ帰るね。明日は本当に、よろしくお願いします。

博幸／ こちらこそ。……………送ってくよ。

早雪／ ありがとう。

博幸／ (カップを片付ける)

早雪／ (コートを取りながら何気にカゴを見て) あれ、ねえねえ、さつき4人分つて

言ったよね、料理。お姉ちゃんとお父さん、お母さん、あと一人は？

(長い間)

博幸／ あの日……震災の前の夜に……………夏美がこの部屋にきてね

早雪／ うん。

博幸／ ……………もう結婚できないかもしれないって。

早雪／ どうしたの。

博幸／ ……………子供ができたって。

早雪／ ……………それで？

博幸／ ……………二人でお父さんに謝りに行った。

早雪／ お父さん怒った？

博幸／ (デイベアを持って) まあ新しい家族がもう一人増えるだけだからって。

早雪／ ……………新しい家族。

博幸／ 「おめでとさん」って言ってくれたよ。……………明日、早雪を呼んで、

また家族会議開いて、皆でお祝いしようって。

早雪／ いいのかな、本当にいいのかな……………

本当は……………すごく不安だったよ。なんで私なの？私でいいの？！私は……………

(顔を伏せる)

博幸／

(父の絵を顔の前に持ってきて) えー、これから櫻田家の家族会議を行います。

このたび濱田博幸さんと…早雪が結婚することになりました。

えー、それでは初めに博幸君からひと言ご挨拶を。

(父の絵を外して) 濱田博幸です。

あの日から、遺体安置所で家族を探すということは…何百人の……

仏様と向き合うということです。突然、人生を奪われた人達……

どんな、夢が、あったんだろう……どんな、思いが、残ったんだろう。

だから僕は…残された命なら……思うがままに生きて行こうって。

一人遺されて、必死に生きている、早雪と……家族になろうって思いました。

(父の絵を顔の前に持ってきて) 早雪、おめでとさん。

(母の絵を顔の前に持ってきて) おめでと、さゆちゃん。

(姉の写真を胸の前に持ってきて) さゆー！

(デヴィエアを姉の写真に寄せて) おめでと！

(早雪 号泣 涙が止まらない)

博幸／ いいんだぞ、泣いたって。……いいんだよ……無理に笑わなくても。

(間 静かにお茶をいれる)

博幸／ サーちゃん。

(早雪 振り返ると顔に化粧水の白い紙パックをしている)

博幸／ びっくりせんなよー、もー

……最っ高に似合うね。そんなに色白だった？

早雪／ 泣き顔見せたくない(パックを外しハンカチで顔を拭く)

(間 二人お茶を飲む)

早雪／ ねえ、やってみようかサプライズ。

博幸／ (吹き出しそうになり) っておいおい……！

早雪／ ケーキってハリボテでしょ？中に入れるよね？

博幸／ いや、そりゃあそうだけどさー。

早雪／ ほらケーキの上に人形乗ってるでしょ？

あれとおんなじポーズでケーキの中から登場ってどうよ？

博幸／ どんなポーズだった？

早雪／ 新郎新婦が腕組んでんの。ほらやって見よ！

(二人腕を組む。ふと組んだ腕の腕時計を見て)

博幸／ サーちゃん。

早雪／ ん？

博幸／ 明日が……今日になったよ。

早雪／ (博幸の時計を見て) ほんとだ (音楽入る)

……よろしくお願いします。

博幸／ こちらこそ、よろしくな……

早雪／ まず司会者がね、新郎新婦の登場ですって言うと、スポットライトが、なぜかケーキにあたる。そうすると2人がケーキの中から

二人／ おまたせー

博幸／ それから

早雪／ 前に……歩き出す

博幸／ うん……胸を張ってな

早雪／ 笑顔でね

(二人顔を見合わせ笑う、あらためて腕を組んで、ゆつくりと前へ歩き出す)

溶暗

第二章 「海月と花火」

高校時代同じ部活でソフトボールをしていた女

1 元オリンピック代表

2 主婦

東日本大震災から数年後、仙台うみの杜水族館。

海月の水槽前のベンチに女2が座って海月を眺めている。

女1登場。

1 / こんにちは……

2 / ……！……こんにちは……

1 / おー

2 / おー

1 / 早過ぎない？

2 / 時間？

1 / まだ30分前だよね。

2 / ゆっくりしようと思って。

1 / ふーん………ね、何で水族館？

2 / 待ち合わせ？

1 / うん。

2 / よく来るんだよね。

1 / ……あんま答えんなくてない。

2 / カフェとかの方がよかった？

1 / いやー……まあ……ね………

(間)

1.2 / 久しぶり……！

1 / もー髪長いからわかんなかったよー。

2 / うんおととしぐらいから伸ばしてんだよねー。

1 / いやー似合う似合う。

2 / ありがとー。何年ぶりかな？

1 / 25年くらいじゃない？

2 / そんな訳ないでしょ。

1 / えそうだよ。
2 / 7年ぶりくらいだよ。
1 / あーじゃなくて水族館に来たのがよ。
2 / あそっち？
1 / 小学校の遠足以来じゃない？
2 / かな。
1 / なんだっけ、魚が名誉町民になっててさ。
2 / マンボウでしょ。
1 / そそそマンボウマンボウ！！ウーーマンボウだよ！！！！
2 / あのね……松島水族館ね。
1 / ここさ、うみの杜水族館っていつできたの？
2 / 震災後かな……松島水族館が駄目ななってここに新しくなったんだよね。
1 / え津波来たの？松島水族館。
2 / 津波もだけどどっちかって言う地震で？もうけっこう古かったからね。
1 / へ〜〜……

(間)

2 / 覚えてる？
1 / なに？
2 / マリンピア松島水族館の歌。
1 / そんなんあったんだ。
2 / (♪マリンピア松島水族館の歌を歌う)
1 / 思い出した？
2 / ……いや最初っから知らない。
1 / えっ!？
2 / ごめんね。
1 / ここにもあるんだよね。
2 / なに？
1 / うみの杜水族館の歌。
2 / 水族館の歌マニア？

(間)

2 / ……海月。
1 / 海月ねー！。
2 / 好きなんだよね。
1 / 私も。
2 / あんたも？

- 1 / うん。だつて冷やし中華にはマストでしょ。
2 / 食べるのじゃなくて生きてる海月。
1 / いやいやいや大嫌い！海水浴で刺されたことあってさー。
2 / ふーん……ふわふわ、ゆらゆら……こんな風に生きていきたいよね
1 / いやー私は地に足がついてなきや。

女2、コンビニ袋から紙パックのジュースをふたつ取り出し、無言でどつちがいいかを聞き、ひとつを女1に渡す。

- 1 / え！？
2 / なに？
1 / ここ持ち込みオッケーなの？
2 / ちよつと……居酒屋じゃないんだから。
1 / ありがとう。

(間)

- 1 / 良夫……残念だったね。
2 / なにそれ？
1 / お悔やみ。
2 / え人の旦那呼び捨て？
1 / 良夫さん。……ってかこんな時なんて言えばいいの？
2 / ご愁傷様でしょ。
1 / 良夫さん、ご愁傷様でした
2 / どうもご丁寧にご………で何で呼び出したの？
2 / 何で黙ってたのよ。カナダ行くのも帰ってきたのも。
1 / ああ……半年前か。父が倒れちゃってね。
2 / それで？
1 / 先月亡くなっちゃったよ。
2 / ……ご愁傷様でした
1 / ご丁寧にも
2 / ……知らせよ。
1 / いやゴメンゴメン、なんか色々忙しくてさ。

(間)

- 1 / ……えそんだけ？呼び出したのって。
2 / 渡したいモンあって。

1 / 何を？
2 / 浮気。
1 / じゃなくて。
2 / 不倫。
1 / じゃなくて。
2 / じゃ何で謝るの？
1 / だから誤解させたから！
2 / (笑う)
1 / ちよっ、何笑ってんの！?!?!?
2 / 知ってるよー7年前の同窓会の後みんなで行ったんでしょ？
1 / そう！そうだよ、震災の前の年だよ！！
2 / 誤解だって誤解、誤解、誤解、誤解だよ。ははは。5回言ってるわ。
1 / !!!んもー………あんたこそ五階も六階もないでしょって昭和か?!
2 / 私だって同窓会出たでしょ。花火は行かなかったけど。人ごみ嫌いだから。
1 / そうそうそう。でしょ？だからふざけてだよ、冗談だよ、冗談！
2 / キスもしてたけどね。
1 / キス？
2 / 証拠写真あるんだよね。
1 / !………良夫………さんと？
2 / 違うよ。
1 / 誰と？
2 / 顧問の佐伯先生。
1 / まじで!!?!どこに？
2 / えっ？
1 / どこにキスしてた？
2 / ほっぺ。証拠写真見る？
1 / 見たくない。
2 / やっぱり
1 / これどこにあったの？
2 / ……本の中に挟まってた。
1 / 本。
2 / 海の中でね。良夫の鞆が見つかった。
1 / え今ごろ？
2 / うん。奥さんが行方不明になった方がね、自分で探すって潜水夫の資格とって。
1 / えー………見つけたの奥さん？

2 / まだみたい。それで色々、遺品とか見つけてくれるんだよね。
で鞆の中の本に挟まっていた。

1 / 本か……………

2 / 「舞踏会」って本。

1 / ……芥川でしょ。

2 / えっ？

1 / 「私は花火の事を考へてゐたのです。我々の生（せい）のやうな花火の事を。」
2 / え何で…？

1 / ほらこう見えても文学少女だから。

2 / 少女、

1 / だったから。

2 / うん。

1 / ……それ良夫さんが言ったんだよ。

2 / 「生（せい）のやうな花火」って？

1 / そう。

2 / ふーん……………。花火大会の夜に。腕組んで言ったんだー。

1 / しつこいからー。

2 / ごめんごめん。私も聞いたことあるよ。せい^①はフランス語で人生。

2 / 花火のような儂い人生って意味だよ。

1 / うん。……………花火のような人生ならね、おんもいきり生きてやろうって

思つてさ。良夫さんがね…背中押してくれたんだって思つてさ……………

それでカナダ行つたんだよね。

2 / おんもいきり生きてたじゃない。

……………実業団入ってオリンピックではメダルとつて……………憧れてたんだから。

1 / こっちこそ憧れてたよ。ちゃんと結婚して、子供育てて。

2 / 平凡なだけでしょ。

1 / オリンピック終わった後ね、現役引退してコーチになつて

……………何にもない自分に気づいたんだよね。

2 / えっ？

1 / 夫も……………子供も……………そんな時に良夫……………さんに言われてさ。

2 / 「生（せい）のやうな花火」……………

1 / なんか新しいことしなきゃって思つてさ。鈴木先輩っていたでしょ。

2 / ショート守ってた？

1 / うん。カナダでね、物産店やつてんの。「オーロラ」って店。

前から手伝つてくんないかって言われてさ。

2 英語話せるんだっけ？

1 フランス語。モントリオールはフランス語だよ。ボンジュール・マダム？
2 マドモアゼル！

1 ……いーけどさ……でも実際日本人はねー若く見られるんだよねー。
2 へーそうなんだ。

1 大学生から声かけられたもんね。ナンパだよナンパ！

2 ボンジュール・マダムって？

1 マドモアゼル！

2 ……

1 つつこんでよ！！

2 で？恋したの？

1 いやーそれが…まあ…仕事がけっこう忙しくてさー。

2 なんだつまんない。

1 来週また戻るんだ。

2 カナダに。

1 うん。

(間)

2 ……海月。

1 海月ね。

2 海月ってね、英語でゼリーフィッシュって言うんだよ。

1 ほおー。ゼリーでできてる魚か。

(間)

2 良夫も見てるのかな。

1 んあ？

2 海の中で。

1 海月。

2 良夫いなくなってるね、

1 うん。

2 ……何にもなくなっちゃった。

1 ……息子くんいるでしょ。

2 いるけどね。

1 可愛いでしょ。

2 少年野球はじめた。

1 もしかしてキャッチャー？

2 うん。

1／ あれだね。

2／ 何？

1／ よく言うじゃん。カエルの子は（言いかけて）

2／ オタマジャクシ。

1／ そう。

2／ 良夫もキツチャーやってたんだよ

1／ 中学ん時？ソフトやってたのは知ってたけど。

2／ 高校は男子ソフトボール部なかったから。

1／ だからマネージャーになったんだ。女子ソフトの。

（間）

2／ ……海月。

1／ 海月。

2／ 良夫いなくなった震災の夜にさ……白いふわっとした物が

見えた気がしたんだよね。

1／ 白いふわっとした物？

2／ 海月みたいな。

1／ わーわーわーやめてやめて！そういう話ダメ！（目を塞ぐ）

2／ 普通耳塞ぐんじゃない。

（間）

1／ これって……水クラゲ？

2／ 水クラゲ。

1／ おつきいねー。

2／ 縦になったり横になったり……開いて閉じて開いて閉じて……

なに考えてんだろね。

1／ 海月？

2／ そう。

1／ うん……たぶんね……何も考えてない。

2／ ちよつとそれ言っちゃおしまいでしょ。

1／ ……今日はどんなエサのプランクトンいっぱい食べられるかな

2／ だから何ですぐ食べ物に持っていくのよ。

1／ いやーずっと気い使ってたからねー食事には。現役時代。

2／ うわさすがアスリート。

1／ でも現役引退した途端20キロ太ってさー。

2／ ……20キロ太ったの？見えない……！！

1／ 戻ったって……！！さすがにやばいと思ってトレーニングはじめたもん。

今でも毎日腕立て100回だよ。(腕立てする)

2 / ちよつとなにやってんの!?

1 / これが将棋に見える?

2 / いやいやいや、ちよつと人前で……………!!!

1 / 誰もいないでしょ。はいあんたもやって。

2 / え、やだよ。

1 / やだもやまだもない。

2 / いいって。

1 / いいからやる。

2 / ぶあー、だめだー……(数回で出来なくなる)

1 / んもー、体力ないな。次、腹筋も見る?

2 / 見たくない。

1 / やつぱり。あー汗かいた。

2 / ふあく……あれなに話してたんだっけ。

1 / だから海月がなに考えてんだかって。

2 / あそうだそうだ。

1 / ……目の前に女が二人。

2 / 一人は筋肉質でいいカラダしてんな。

1 / もう一人はムツチムチでいいカラダしてんな。

2 / どっちが綺麗かな。

1 / ……まどつちもどつちだな。

1 2 / (横目でお互いを見る。目が合つてクスツと笑う)

(間)

2 / 海月って、横から見ると花火に見えない?

1 / 見えるね。

2 / 良夫も海の中でこんな花火見るといいな。

1 / ……いいね。

(間)

2 / あーー人生がいつそ夏の花火だったらいいのになー。

ぱつと咲いてぱつと散って。んねっ。

1 / なーに言ってるの。フランスではね、本当の大人の恋ができんのは

40過ぎてからって言われてんだよ。

2 / 40過ぎかー。

1 / 私らなんかまだオネイチャンよ。

2 / マドモアゼルだもんね。

- 1 / まギヤルではないわな。
2 / ……もう一（ひと）頑張りか。
1 / ……いやーあと三（さん）頑張り。
2 / んじゃまだまだこれからだね。
1 / そつ。これからこれから。
2 / ……うん。何か自信湧いてきた！
1 / ……うん。食欲も湧いてきた！
2 / でたよ……。

（間）

- 1 / ね、これから行行ってみない花火大会！
2 / 今日港祭りか。
1 / 行こ、行こ！！
2 / えー、だから人ごみ嫌いなんだつて。
1 / んじゃ、高校の屋上から見ようよ！よく見たじゃん。
2 / あそこなら人いないしき。
2 / え叱られるつて。
1 / 大丈夫、大丈夫、私名誉町民だから。
2 / 関係あんの？
1 / この間講演頼まれたのね、後輩たちに体育館でオリンピックの話してくれ
つてき。そんな時グラウンドに行行ってちゃんとチェックしてきたんだから。
2 / なにを？
1 / ゲートの隙間。
2 / ちよつ…何処チェックしてんのよ。
1 / いや懐かしいなって思つてさー。だから忍び込めるよ非常階段昇つて。
2 / 屋上に？…行くか…捕まっても何か盗む訳じゃないしね。
1 / うん
2 / それに、
1 / ウー…マンボウ！
2 / 名誉町民だからねー。
1 2 / （笑う）
2 / 行くか！！
1 / 行こ行こ！！

（曲 Que Sera, Sera 流れる）

溶暗

第二章 「ニライカナイの風」

港町の小さな船着き場。夜。遠くから盆踊りのお囃子が聞こえる。

堤防に腰掛け、流し灯籠に南国の花の絵を描いている男。

周りには絵の具箱。水を入れたビンには筆が何本かさしてある。ペットボトルの飲み物。足もとに蚊取り線香。

男 震災で妻を亡くし、いまだ行方不明。妻を探す為に潜水の資格を取り

休みごとに潜っている。タクシー運転手・

(絵を描きながら、盆踊り唄を小さく口ずさんでいる。)

おーい聞こえつかう 盆踊りの歌

いや〜久々だなや。今日はな・・あれがら、初めでの港祭りなんだ

花火はな、天国から見えるようになって、いつもより派手に打ち上げんだど。

灯籠流しはさ、昔は、ただただ、ご先祖さんに向けて流したけど。

今年のはほれ、あの日、いねぐなつた人たちに向けて流すべつ〜ごどになつてな。

んだがらこうやって自分で絵描いでんのか。なんだが、この方が思いが込められつ〜。

むがし……なんだつけほれ……二人で観た映画……あのー……あれだほれ、亡くなった奥さ

んに向けてビンのながに手紙入れて海さ流すやぶ……誰だつけあれ……ケビン・コスナー

が、出つたの……

あぁんだ、「メッセージ・イン・ア・ボトル」だ。

そうすつとさしずめ俺は……ケビン・コスナーがわ？ははは (笑い)

ほんではこれは「メッセージ・イン・ア・トーロー」だつちやな。

(絵の出来具合を見るように灯籠を少し離して)

おーう。元気がーーう？いねぐなつた人に元気がつーのもおがしいな……んでも、元

気が？

お前帰ってきたら、色々、話てえ事、いっぺあつたのに……なに話せばいんだがな

あ、んだんだ、(絵にもどり) サスケ帰ってきたぞ……ってなんで一等最初が

猫の話なんだよ。

んでもおめえしんぺーしつたがらな。震災の前の日に急にいねぐなつたがらさー。

まあ、俺達の子供代わりだしな。

波引いで一週間ぐれしてが、やせこけで泥だらげで、ひよっこり帰ってきたのよ。

黒猫で忍者みでーだからサスケつつー名前にしたのに、あんでは灰ねごだったな。
やっぱ動物のカンつつーやぶでわがったのがな、津波くんの

おめえもな…にゃんこみでぐ、ひよっこり帰ってくつといいのにな。

(筆をジャボジャボしながら)

おめえ見つかんねーがらさ、まーだ葬式あげでねんだよ。んだがら位牌もねくてさ。

……位牌つつえばむがしばあちゃんかなー、じいちゃんの位牌に向がってお茶っこ二人分あげで

ずつと話かだりしつたな、あるどぎ、あんまりなげえんで見でみだら、座布団に座ったまま眠かげしてだのさ。にやけながらな、それで、「ぐふふ」「ぐふふ」って笑ってんだ、夢んながでじいちゃんと何がしつたんだべな。

(絵の出来具合を見るように灯籠を少し離して)

俺はね……とりあえず元気だちや 元気満帆。仕事も変わらず。タクシーの運ちゃん。

うん、サスケも元気だよ、まるまる太ってな。

(灯籠を持ったまま逆方向に目を転じ)

あつちの浜で宵まづりやってんだげどさ、灯籠いっぺー流すつつーがら

俺の灯籠ほがのどまぎれんのやんだっちゃ。

んだがらこの船着き場がら一人で流すごとにしたのさ。

(絵にもどり) ここはな、いつもおめえを探しに船だすどこのさ。

今俺な、おめえを探してんだよ。潜水士の資格とってな、休みのたんびに潜ってんのさ。

震災の直後はさ、自衛隊がらボランティアの人までみんなして

行方不明の人探してくれだげど、だんだんに、減っていったな。

まーだ千人以上見つかってねえんだげどな。

んだがら俺、いでもたつてもいらんねくて、自分で探すべど思ってたさ、

(ため息まじりに) そんでもねー……

(口ずさむ) うーみーはーひろいーなーおーきーなーでさー。

……おめえはながなが見つかんねんだな。

(ふと手を止めて)

「なみだはいちばん小さな海です」……だっけが？

おめえの好きだった……確か……アンデルセンの言葉だったけが？

不思議なもんだよな。おめえがいねくなつてがらの方が、おめえ好きだった本だの

映画だの、ぼろつとしゃべった言葉だの、なんだのかんだの思い出すんだがらな。

テレビどが見ででもさ……んだ、テレビつつえばさー、

買ったばりのテレビ津波で駄目になったよー

家は流されなかつたけど、一階の真んながあたりまで波きてき家電全滅だったからな。

おめえど二人で好きな映画いっぺ見っぺど思ってたのにさー。やっぱり、あーでもねーこーでもねーって、しゃべりながら見んのが醍醐味だっちゃ。ひとりで見でも、なんだがさっぱり盛り上がんねくてな。

(絵の出来具合を見るように灯籠を少し離して)

おめえの勤めでた信用組合も再建されでな。近ぐまで行っただきに見できたよ。屋上も前どおんなじようにあつたな。三階の。おめえがそこで弁当食うの好きだつて言っただき。

海眺めながら潮風に吹がれでマーメイド弁当なんだよ、なんつってだのに、まさか、あそごまで波くつとはな。どんなに寒つがたべ。どんなに恐ろしがつたべな。俺がもつと早く助けに行つてればな。

あの日はな、登米の石ノ森章太郎ふるさと記念館でお客さん降ろして、すぐに地震きたんだよ。すぐ、おめえんどごむがつたんだけど、道は、がだがだで、橋なんか道から浮いでんだ

やっとな山道抜けで町見えつとごさきたら

真つ黒い波だが泥だがわがんね物に、町、沈んでだ。

そこに、おっそろしいぐれえ真つ白い雪降つてきて……白黒の世界さな。

地獄つていうのはあいな色のねえ世界なんだべな。

なんかな、あの日からな、何見ても、ごさ行つても、風景がら、色、脱げ落ちたような気がしてな

(筆を洗い、そのままビンに筆を残し、灯籠も置く。ペットボトルから飲み物を飲んで一息つく)

ふ〜〜。 (何気に周りを見て) こごらも瓦礫だらげだったよ、かたずけるのに十年かかるつていわれでだ瓦礫は三年でねぐなつたけど、三年でねぐなるつて言われでだ仮設住宅は、 (一口飲み) まーだいっぺー人住んでんだぞ。

(灯籠を持って) わがつか、こいづ。沖繩の花だぞ。ハイビスカスだ
新婚旅行でな、二人で見だよな

……まだ連れでいぐつて言つてだのに約束守れねがつたな。

(一口飲み) サスケとでも行くかな

(灯籠をまた置いて)

震災がら一年ぐれしてがらが。こつちがら流されだ船が沖繩の海で見つかつてな。

おめえも、もしかして沖繩まで流されでんでねえがど思つてさ。いぎでがってたがらな。んだどしたら（一口飲み）こっちよりもあつたけーがらいいな。

きれいだったよなー沖繩は花も魚も海も空も、色ど光に満ち溢れでだよなー。

……天国つてあいなどこなんだべな。

そういえば旅行のガイドさん言つてだよな。

「沖繩にはニライカナイつていう天国がある」つて。

遙か遠い海の彼方にあつて、ニライカナイに行った魂は

遺された家族の守護霊になってくれんだつてな。

（空をあおいで）……おめえも見守つてけでんのが……

（軽く笑い）天国だの靈魂だの信じねえ人間だったのにな、俺は。

（また描き始める）

震災がらしばらくして、やっと燃料入つてきたど思つたら、

避難所まわりだの、買い出しだのつて、もう昼夜ねえつくれ忙しくてさ。

ある晩な、車流してだら、赤ん坊抱いだ若いお母さん乗せだのよ。

浜の方の住所言うがら、そこは津波でなんにもねぐなつたどごだつたんだげど、行つて降ろしたらさ、海の方さ歩いていぐのさ。

気になつてなー追つかけていって、「お客さん、どうしたのっしや？」つて聞いたら

「運転手さん……私、死んだんですかねー？」

「お客さん、なにかだつてんの」つて言つたら、目の前で、スツーと海の方に消えていってな……仏さんだつたんだな。

んでも不思議におつかねどは思わねのよ。

……もし、おめえが乗つてきたらそのまま沖繩でも、どこさでもドライブすんものにななーに、俺のタクシーは水陸両用だから、大丈夫だ。

（このあたりで描き終わる。筆を置き、絵の具を乾かすように灯籠に息を吹きかける）

（灯籠を離して見ながら）

今日は朝からにぎやがだつたぞ。たくさん船がな、大漁旗なびがせて港野中巡つてんだ、もう色とりどりで、輝いででな。

でつけえ鯉のぼり付けでる船もあつてな。いねぐなつた子供たちのためになんだど

風にふがれで、海の上元氣よく泳いった。

それ見でだらな……あー、世のながはこんなにも色で溢れでんだなーつて、しみじみ思つてな。

午後からおめえ探しに潜つたんだげど、海藻は深緑、ホヤはレンガ色中に輝くオレンジ色。魚の群れは銀色つて感じるこどでぎでな。

海がら顔出してくらげみでえにぶかぶか浮がんでたら、海も空も真っ青だった。

(灯籠を置いて、貝殻を出し) ジャジャンーン！これ覚えてつか？

沖縄の海で拾ったよな。

(耳に当てて) こうやって耳に当てると「沖縄の風さん」の音が聴こえる
なんつってだな。

これ入れてやつからさ、(灯籠を持ち) 水先案内人になってけつといいな。

(貝殻を灯籠に入れ) はい、風の音を使りに進んでいってください。

(絵を見ながら) ……ながながいーんでない？俺字は下手だけど、絵はまあまあだな。

(火を点けて合点)

(数発の花火が打ち上がる。それを眺めて) おー、始まったな。

あんなでつけえ花火みでーに派手な光でねえげどさ。

こいつは俺のプレミアム灯籠だから、きつと……見つけでけるな。

(花火が連発で打ち上がる。鮮やかな光と大きな音の中、灯籠を海に向け高く掲げ)

おー、風さんよう。遠ぐまで、はこんでけるな。

(花火の音に声がかき消される。ゆっくりと海に向かって歩き出し灯籠を流す)

大きな花火が打ち上がる中、女1、2登場、花火を見上げる

博幸と早雪手を繋ぎ登場、花火を見上げる

終幕

お問い合わせ info@ginsbar.com

ホームページ「ギンズバー」 <http://www.ginsbar.com>